

ICT機器の有効活用を図りながら

本校は、平成22年度から「フューチャースクール推進事業」（総務省）、翌23年度からは「学びのイノベーション事業」（文部科学省）の実証校として、ICT機器やデジタル教科書の有効活用を図りながら協働教育の実現に向けて研究を進めてきました。

77インチのボード型電子黒板や実物投影機、無線LANシステム等が教室に、児童には1人1台のタブレットパソコンが整備されています。

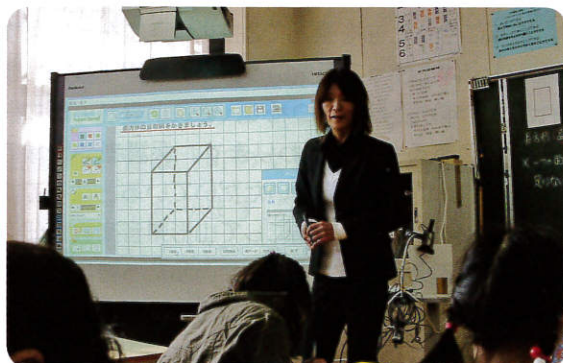
とりたてて機器に秀でた教職員がいたわけではなく「とにかく慣れよう」「まずは使ってみよう」という段階からのスタートでしたが、現在は、授業のここぞという場面での活用に努めているところです。

ICT機器ならではの、視覚化による学習意欲の喚起や考えの共有、タブレットパソコンの持ち帰りによる学校と家庭の学びの連続性など、ICT機器のもつ可能性はこれからもますます広がると思います。

研究をとおして多くの成果を得ることができましたが「授業を組み立てるのも実際に行うのも教師である」ということを忘れず、学習活動の基盤とも言える学級経営の充実、そして教師の授業デザイン力の向上を今後ともめざしていきたいと思っています。



友だちのタブレットパソコンを見ながら考えの交流



学習素材の視覚化による電子黒板を使った「わかる授業」の推進

地域と協働して学ぶ真中

本校は、平成25年4月、真室川町立及位中学校と統合して、町内唯一の中学校とし、新たな歩みを始めました。南に月山、北西に鳥海山を仰ぐ恵まれた環境のもと、東北でも有数の広大な敷地を活かし、子ども達はのびのびと学習に部活動に取り組んでいます。

町内唯一の中学校として、地域に根ざし、地域から学ぶ活動を積極的に推進しています。JRC加盟校として、学校内にとどまらず、地域に飛び出し、地域の方々とともに奉仕活動に取り組んでいます。学校前の国道や真室川公園の清掃、近隣の介護施設での花植えなど、奉仕作業にとどまらず、コミュニケーションを大切に活動を行っています。

また、8月に行われる真室川祭りでは、1年生全員と生

徒会が呼びかけた有志が音頭パレードに参加し、また吹奏楽部が「Music Festival」での演奏を行い町民の皆さんに喜んでもらっています。また、9月に真室川駅前で行われる「がんばろう東北!復興支援日本一祭り」に吹奏楽部が参加し被災地に元気を送る演奏を町民の方々と共に行っています。

授業でも、町の伝承野菜である「甚五右衛門芋」を栽培している方を講師に、講演会や調理実習を行い町の食文化に親しむなどの体験とともに、地域に生きる思いを共有しています。

学習でも学びあいの授業をとおして生徒同士が精一杯考え合い、表現しあう授業で学力の向上を図っています。



介護施設での花植え



吹奏楽部による「Music Festival」での演奏